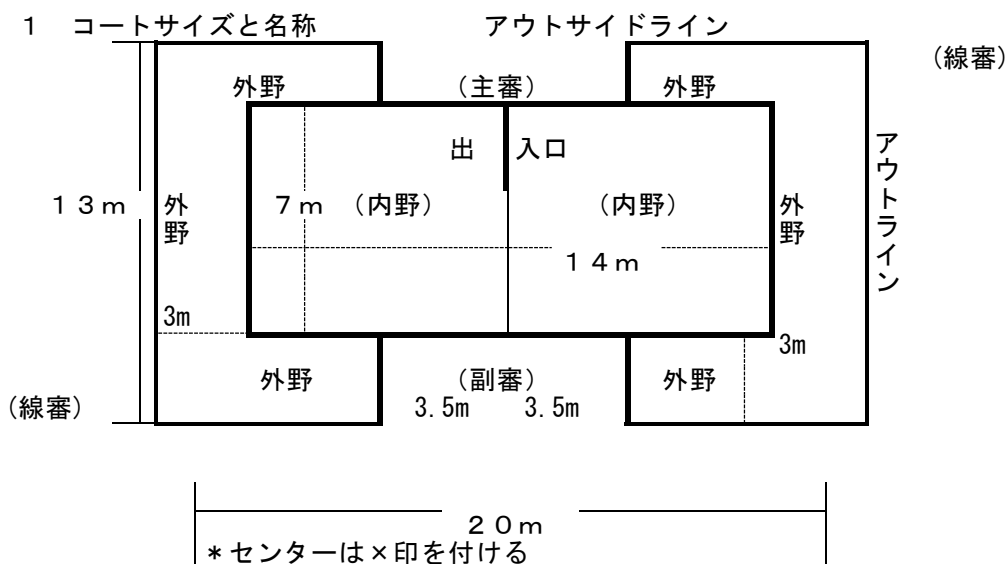


R5小学生ドッジボール大会 (交流の部) 競技規則



2 チーム構成 (資格と人数)

- ・ 監督大人 1人、選手 8人以内 (交代なし)
- ・ 選手は小学生とし、男女混合チームも可。

3 競技時間

- ・ 1試合 5分とする。(ランニングタイム)

4 用具

- ・ 高学年：日本ドッジボール協会公認 3号ボールを使用する。(モルテンMSDB)
- ・ 低学年：スマイルボール 1号を使用

5 競技方法

① 自陣の選択

試合前に両チームの代表がジャンケンでコートを選択権を決める。

② 選手の権利及び位置

- ・ 試合開始時には、コート場に 8人の選手が出場していなければならない。
- ・ 試合開始時外野には 1人以上 7人以下を配置することができるが、外野プレーヤーが内野に入る場合は、相手内野プレーヤーをアウトにしなければならない。
- ・ 内野でアウトになった者は、すぐに外野に出る。
- ・ 外野で相手をアウトにした者は、外野に 1人以上いる時は直ちに内野に復帰できる。
- ・ 外野で内野に入る権利を持つ者がいる場合、外野が 1人を割らない条件で実行する。直ちに行動しない場合、その権利は、失効する。
- ・ 外野で内野に入る権利を持つ者が相手をアウトにした場合、重複して内野に入る権利は生じない。
- ・ 内野に入る権利を他の者に譲ることはできない。

③ 試合開始

- ・ じゃんけんによりコート・ボールの選択をする。
- ・ 主審のホイッスルによりゲームを開始する。

④ 攻撃

- ・ 反則に気をつけ、内外野の連係プレーなどで相手内野を攻撃する。
- ・ 外野は相手をアウトにした時、直ちに内野に入る。ただし、外野の人数 1人を割らないこと。
- ・ 内野に入る場合は主審、副審の後ろを通過して入ること。
- ・ 外野から内野に入る者を故意に狙ってはいけない。

⑤ 守備

- ・ 相手の投げたボールがフロアに着く前に、体 (頭部以外) にあたり、ボールがフロア

に着くまでに、自分あるいは味方が捕球できない場合アウトとなる。また、相手が捕球した場合もアウトとなる。

- ・相手の投げたボールが2人以上にあたり、ボールがフロアーに着いた場合は、最初にあたった1名がアウトになる。
- ・アウトになった競技者は、速やかに外野へでる。
(アウトになったものが、わざとボールにふれた場合は相手内野ボールとなる)

⑥タイム

- ・競技中のタイムアウトは認めない。(事故等やむを得ない場合を除く)
※審判の判断よりタイムを取る

⑦アウト オブ バウンズ

- ・ボールがアウトライン、アウトサイドラインを越えた場合は、最後に触れた反対側のチームの内野ボールとなる。
その際、主審のホイッスルで再開する。

⑧勝敗の決定

- ・時間内に相手の内野をすべてアウトにした場合、その試合を終了する。
- ・両チームとも内野が残った場合には、人数の多いチームを勝ちとする。
- ・残った人数がすべて同じ場合には、サドンデス(以後1名アウト)により決定する。

⑨反則

反則があった場合には、主審がボールの支配権を指示する。支配権を持ったチームが、主審のホイッスルで試合を再開する。

オーバーライン

- ・投球し、その動作が終わるまでに、ラインを越えたりしてはいけない。捕球の場合も同様とする。反則の場合は、相手内野ボールとなる。

オーバータイム

- ・味方同士のパスは4回までとする。反則(遅延行為)の場合、相手内野ボールとなる。

スティール ザ ボール

- ・相手コートにあるボールをとってはいけない。ただし、ボールが空中にある場合は、この限りではない(相手コート内でドリブルは反則)。反則の場合は、相手内野ボールとなる。

ラフプレイ

- ・頭部をねらう攻撃。(ゲームを中断し、両チームの監督の確認をとる)
- ・転倒者をねらう攻撃
- ・故意のキック。
- ・その他、審判が危険と判断したプレー。
反則の場合は、その度合いにより、アウトもしくは退場になり、相手内野ボールになる。

その他

- ・判定に対する抗議は受け付けない。抗議した場合は、アウトもしくは退場になる。

⑩応援

- ・アリーナには、選手8人と監督1人のみ入ることができる。よって、応援の者は2F観客席からの応援とする。
- ・2F観客席からの判定に対する抗議は、受け付けない。
マナーが守れない場合は、そのチームに警告等の罰則があたえられる。